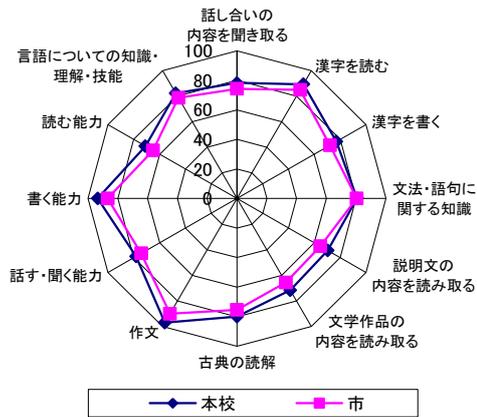


宇都宮市立豊郷中学校 第3学年【国語】問題の内容別／観点別正答率

★本年度の市と本校の状況

		本年度	
		本校	市
問題の内容別	話し合いの内容を聞き取る	78.2	74.3
	漢字を読む	89.3	84.9
	漢字を書く	77.1	72.1
	文法・語句に関する知識	80.7	80.5
	説明文の内容を読み取る	70.4	64.6
	文学作品の内容を読み取る	71.6	65.6
	古典の読解	79.9	75.3
観点別	作文	97.0	90.0
	話す・聞く能力	78.2	74.3
	書く能力	93.5	86.8
	読む能力	71.0	65.1
	言語についての知識・理解・技能	82.2	78.6



★指導の工夫と改善

問題の内容	本年度の状況	今後の指導の重点
話し合いの内容を聞き取る	「話し合いの内容を聞き取る」の領域において、本校の正答率が市の平均正答率の数値を3.9%上回る結果となった。「話し方の工夫を聞き取ること」や「発表内容をまとめること」は市、及び全国の正答率を上回ったが、唯一「話の内容を正確に聞き取ること」においては下回ってしまった。	左記のとおり「話の内容を正確に聞き取ること」の観点において、市や全国の正答率をしまわっていることから、メモを取りながら話し手の発言を正確に聞き取るような課題を多く授業に取り入れていくことが必要である。また、市や全国の正答率を上回っているものの、「発表の内容をとらえて、その意図を推測し、まとめること」においては正答率が60%を下回っているため、さらに正答率を上昇させられるよう単に「聞く・聞き取る」ではなく、「話し手の内容に対して考察をしながら聞く」練習を授業の中でさせていく。
漢字	「漢字」においては、「読む」の領域の本校の正答率は市の平均正答率の数値を4.9%上回る結果となり、「書く」の領域においては5.0%上回った。すべての問題に対して市や全国の正答率を上回っており、全国的な水準から見ても概ね学習内容の定着がなされていると言える。	「読み」で誤答が多かったのは「輪郭(りんかく)」であり、「書き」では「専門」である。漢字は書き慣れていないものや、他の漢字に似ているものに誤答が多くなりやすい。普段の生活の中で、使用頻度がある程度高いもの以外の漢字に触れさせるために、新聞を読む時間を授業の中に取り入れる。また、形の似ている漢字は逐一授業でその違いを説明する。
文法・語句に関する知識	「文法・語句に関する知識」の領域において、本校の正答率は市の平均正答率の数値を0.2%上回る結果となった。慣用句や四字熟語、助動詞に関する問題に対しては市や全国の正答率を上回る結果となっている。しかし同音異義語に関する問題においては、全国の正答率とほぼ同じものの、市の平均を下回る結果となった。	まず文法に関しては履修内容をすべて定着させることは容易ではない。だから文法以外の単元であっても、扱う教材の文章を用いた品詞に関する問題を生徒たちに出題するなど、年間を通じて確認することで少しずつ定着させる。次に語句に関しては、存在するすべての慣用句や四字熟語、同音異義語に触れさせることは難しい。1つでも多くの語句に生徒たちが触れ、自発的に意味を確認・理解していけるような授業展開を取り入れる。
説明文の内容を読み取る	「説明文の内容を読み取る」の領域において、本校の正答率は市の平均正答率の数値を5.8%上回る結果となった。すべての問題に対して市や全国の正答率を上回っており、概ね良好な成績を収めることができた。	文章の内容をとらえることは概ねできているが、筆者の主張を正確にとらえることや、内容を具体的な事例にあてはめることを苦手としている。文章の構成を分析する作業や、筆者の主張を正確にとらえる授業展開は基より、読み取った内容を具体的な事例にあてはめる経験を授業の中でさせていきたい。
文学作品の内容を読み取る	「文学作品の内容を読み取る」の領域において、本校の正答率は市の平均正答率の数値を6.0%上回る結果となった。この領域に関しても市や全国の正答率を、すべての問題において上回ることができた。特に登場人物の心情を捉える問題に関しては大きく上回っており、描写から人物の心理を探ることができていることがわかった。	登場人物の発言などから、その人物の心情をとらえることに関しては正答率が90%を超えているものの、直接的ではない表現(様子の描写や隠喩など)に隠れた心情を読み取ることを苦手としている。大まかな内容の読み取りや、はっきりとした心情表現だけでなく、細かな描写にまで着目させることで作者が作品の中に作り上げた世界観をしっかりと読み取ることができるよう課題を授業に組み込んでいきたい。
古典の読解	「古典の読解」の領域において、本校の正答率は市の平均正答率の数値を4.6%上回る結果となった。この領域もすべての問題において市や全国の正答率を上回る結果となった。中でも全国との比較を見ると、すべての問題において10%以上の正答率を収めている。	省略された主語を正確にとらえることができていない。古典文学は主語が省略されていることが多く、これを正確にとらえることができないならば内容を正確に理解することもできない。教科書に掲載されている文章を中心に、主語は何なのかを確認しながら授業を進める。
作文	「作文」の領域において、本校の正答率は市の平均正答率の数値を7.0%上回る結果となった。この領域に関してもすべての問題において市や全国の正答率を上回る結果となった。文章構成や記述など、さまざまな視点からの問いであったが、すべてにおいて90%以上の正答率を収めることができた。	左記のとおり、日頃からの授業内容が作文に生かされていることがわかる。だがその中でも特に「3段落構成で文章を書く」という制限が加えられた課題に関しては正答率が低くなっている。自分にとって得意な型をしっかりと身に付けさせることは大切だが、あらゆる構成で文章を書くことができるよう繰り返し練習していきたい。